

『そんなに自分をせめなくても』

幻冬舎スタッフによるアドバイス・感想

様

このたびは幻冬舎拝読サービスをご利用いただきありがとうございました。
お預かりした原稿についての幻冬舎スタッフによる講評・感想は下記のとおりです。
ご査収のほど、よろしく願い申し上げます。

幻冬舎出版局

編集者より

素直な文章で読みやすく、また、一般的に知られていない生保レディをめぐるエピソードも興味深く読みました。

ただ、一冊の本にしようとするなら、まず根本的なところから考える必要があります。

1) 読者は誰か？

全く生保に関係ない一般の人なのか、生保レディ経験者なのか、これから生保レディになろうとしている人なのか。ちなみに、生保レディは読者としては限定されすぎるため、部数が見込めず企画が通らない可能性が高いと思われます。

2) 何を書きたいのか？

何を読者に訴えたいのか。本文中、「私」「私たち」と「加藤」「多部」「西和田」など複数のレディの事例が混在しています。これですと、語り手の立場がはっきりしません。

自分の経験を元に生保レディの実態を綴る「エッセイ」なのか、語り手となって様々なレディの事例を語る「ルポルタージュ」なのか、様々な事実を元にフィクションとして組み上げる「小説」なのか。

まず読者を具体的に想像してみる。その上で、ご自分だけが知る「生保レディ」の実態をどのように伝えたいか考えてみられると、エッセイなのかルポなのか小説なのか、どのスタイルがマッチするかや、原稿に必要なエピソード、構成、章立て、タイトルなどが見えてくるのではないかと思います。

校正・校閲者より

- 全体的に読みやすく上手な文章で、内容を把握しやすかったです。
- 意図的でないのかな？と思われる改行箇所が散見されました。
- 全体にアラビア数字が使われていたので、数字はアラビア数字に揃えました。熟語や成句、慣用句などは漢数字をえんぴつ出ししています。
- 項目内で、一人称と三人称の地の文が混在しているところがありました。
- 人数や年齢、期間など、数字の不統一が多く見られました。
- 登場人物の設定が首尾一貫していない部分がありました。
- 同内容の文章が繰り返されることが多くありました。